
僕の幸福の背景

響

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の幸福の背景

【Nコード】

N3429S

【作者名】

響

【あらすじ】

『嘘つきみーくんと壊れたまーちゃん』の最終巻のその後の話。
ネタバレ警報を発令します。

「みいきゆうくん!!!」

まーちゃんがいつもの様に僕に抱き着いて、頬を擦り寄せて来る。平和な証拠だなあ、などと呑気に思っていると、御園マユは僕の脳天を力一杯に叩いてきた。ある意味、僕には平和ではないような気がしてくる。嘘だといいなあ。

マユが僕を『みーくん』と再認識し始めてもう何ヶ月経ったのだろうか。少なくとも3ヶ月は経っている筈だ。つまり、御園マユが菅原道真を殺した日から3ヶ月経っているわけだ。人生ってこんな風に早く過ぎ去ってしまうのだろうと考えた、嘘だけど。

2

そういえば、最近にもうととの遭遇率が大江姉妹よりも高い気がする。ニートな先生よりも外出する機会が多いなんて、あにいちちゃん感動ですよ嘘だけ。

「みーくん聞いている?」

「うん、聞いているよ」

僕がそう返事をする、マユがむつけたように頬を膨らます。可愛

いなあと思いながらそれを摘まむと「ふぎゆ」と声をあげる。やはり、マユと居ると和む。

「みーひゅんひょうふいひゃひよ？」

訳の判らない日本語を話すマユ。半分嘘だけど。

僕はマユの頬から手を離し、抱きしめる。マユは眠るように僕に体重を預けてきた。そのまま、心地よい沈黙がよぎる。

僕は幸せだ。好きな女の子と平和に暮らせているという事実が、僕を安定させている。多分これからも僕は様々な人間に出会い、その人間を踏みつけてマユを守るだろう。それを否定されても、罵られても構わない。

マユと僕さえ死ななければ、僕は本当に幸せなんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3429s/>

僕の幸福の背景

2011年10月8日23時22分発行